

# 急須でお茶を

悠々  
閑々  
茶味  
絶佳

宜興・常滑・香味甘美

かみかんび

上 初代山田常山 朱泥茶壺(做玉川珍、常滑 大正時代末期)  
下 華健(研究員級高級工芸美術師、大杉六方、現代)



主催=INAXライブミュージアム企画委員会  
共催=宜興陶器博物館・中国紫砂博物館  
協力=宜興市政府、宜興市文廣新局、宜興陶磁行業協会、  
煎茶道賣茶流 家元 高取友仙庵  
展示デザイン=西本剛己 (ARTLAB+)



INAX ライブミュージアム

※INAXライブミュージアムはLIXILが運営する文化施設です。

Tea Served in a Kyusu—Yixing & Tokoname, Sweet Aroma & Flavor

2018年4月21日(土)~9月25日(火)  
April 21, 2018-September 25, 2018

# 急須でお茶を

かみかんび

## 宜興・常滑・香味甘美

Tea Served in a Kyusu—Yixing & Tokoname, Sweet Aroma & Flavor

## 宜興の急須、常滑の急須、 世界の、そして日本のお茶の時間を変えた

ペットボトルなどの普及により、急須でお茶を「淹れる」習慣から遠ざかった人が多くなっています。一方で、日本茶の産地や品種を知り、楽しむ人が増え、さまざまな点からお茶のよさが見直されています。急須は、茶葉を投げ、お湯をそそぎ、待ち、そして器につぐというお茶を淹れる一連の動作の主演となり、慌ただしい日常の生活を一瞬にして心地よい異空間・異次元へと導きます。

やきもの、ガラス、鋳物など現在にはさまざまな素材の多彩なデザインがありますが、その多くは宜興産の急須がモデルになったものです。急須の名産地として日本でもなじみ深い、中国・宜興（ぎこう）。なかでも「紫砂（しさ）」と呼ばれる深みのある色の急須は、清時代の文人はもとより、日本の京都や江戸の文化人、さらにはヨーロッパの人たちをも魅了しました。急須は色や形を変えながらも、茶を飲む文化とともにティーポットとして定着しました。

常滑（とこなめ）では、この宜興の影響を受けながら江戸時代後期から急須をつくり始め、日本の急須の代表的な産地に成長し現在に至っています。

本展では、お茶の時間をより味わい深いものにする魔法の道具「急須」の魅力を、宜興と常滑を中心とした古今の約50点の急須とともに紹介し、お茶を淹れるひとときの豊かさを改めて体感いただきます。

With the popularity of plastic bottles, the custom of brewing tea in a teapot has become a thing of the past for many people. At the same time, interest in Japanese tea is experiencing a revival as people learn more about different varieties of tea and the regions where they are produced. The process of making tea provides a respite from our busy lives, inviting us to relax in a different time and space. In brewing a pot of tea - dropping the tea leaves in, pouring hot water over the leaves, waiting a few moments, and pouring the tea into cups - the teapot plays an essential role. Modern teapots come in a variety of styles and materials, including ceramic, glass, and metal, but most of their forms are derived from Chinese Yixing teapots. Among Japanese people, the Yixing region is well known for its teapots. In particular, deeply colored "purple clay" Yixing teapots have been favored by connoisseurs in Qing dynasty China, Kyoto and Edo in Japan, and Europe. Although colors and shapes have changed over the generations, teapots are as much a part of our culture as the practice of drinking tea itself. Tokoname potters, influenced by Yixing ware, began making teapots in the later part of the Edo period, and today Tokoname has grown into one of the most important teapot-producing regions in Japan. This exhibition introduces some 50 teapots from Yixing and Tokoname, inviting viewers to experience the magic of these utensils that enrich the act of drinking tea.

会場＝「土・どろんこ館」企画展示室

開館時間＝10:00am～5:00pm（入館は4:30pmまで）

休館日＝毎週水曜日（祝日の場合は開館）

共通入館料＝一般：600円、高・大学生：400円、小・中学生：200円（税込、各種割引あり）

### INAXライブミュージアムへのアクセス

#### バス

■名鉄線「常滑駅」または中部国際空港より  
知多バス「知多半田駅」行き  
「INAXライブミュージアム前」下車徒歩2分

#### お車（乗用車・バス駐車場完備）

■名鉄線「常滑駅」より約6分  
■中部国際空港より約10分（「りんくうIC」降りる）  
■知多半島道路「半田IC」より約15分  
■セントレアライン（名古屋方面から）  
「常滑IC」より約7分

〒479-8586 愛知県常滑市奥栄町1-130

TEL: 0569-34-8282

FAX: 0569-34-8283

<http://www.livingculture.lixil/ilm/>



INAXライブミュージアム



#### 主な展示作品

##### ●中国・宜興

- ・紫泥茶銚、孟臣銘、萬豊順記形、清時代 [1]
- ・朱泥茶銚、墨縁齊、清時代 [2]
- ・周桂珍（中国工芸美術大師）、六倫壺、現代 [宜興陶器博物館]
- ・邱玉林（中国陶磁芸術大師）、万裏茶道（彩陶紫砂壺）、現代 [宜興陶器博物館]

##### ・呉奇敏、合和壺、現代

- ・唐朝昌（助理工芸美術師）、春華秋実（壺）、現代 [3]
- ・范澤鋒、「禅墩・唯頌」、現代 [4]

##### ●日本／常滑

- ・金士恒、朱泥茶銚、明治時代、常滑
  - ・三代清風与平、白釉茶銚、明治時代、京都
  - ・堀友直、色絵母子鶏茶銚、明治時代、万古
  - ・初代山田常山、朱泥茶銚（倣 玉川珍）、大正時代末期、常滑 [5]
- 会期中、展示作品を一部入れ替えます。